東北大学
TOHOKU UNIVERSITY

Press Release

2026 年 11 月 2 日

報道機関　各位

国立大学法人東北大学
ノバルティス財団（スイス）

仙台市×東北大学×ノバルティス財団（スイス）循環器疾患リスク低減に向けた取り組みを開始
—CARDIO4Cities に日本で初めての参加都市—

【発表のポイント】

- 東北大学、仙台市およびノバルティス財団は産学官連携プロジェクトとして、循環器疾患（注１）対策に関する取り組みを開始することを 2026 年 11 月 2 日に合意しました。
- 仙台市民の健康寿命延伸に向け、主要な死因の一つである循環器疾患リスクの対策として自治体主導の循環器疾患対策及び住民の健康づくりを３者の共同プロジェクトとして行います。
- 仙台から国内の他都市の参考となるモデル作成を目指します。

【概要】

東北大学、仙台市およびノバルティス財団は、官産学官連携によるプロジェクトである、循環器疾患リスク低減プロジェクト「CARDIO4Cities」に関する取り組みを開始することを 2026 年 11 月 2 日に合意しました。期間は 3 年を目途に、プログラムの確立から実装までを行う予定です。

CARDIO4Cities は、都市全体で心臓や血管の病気を減らすための取り組みです。特に、高血圧、糖尿病、脂質異常症、肥満といった心血管代謝（カーディオメタボリック）リスク因子に焦点を当て、データで地域の課題を把握し、医療機関・職場・地域など多様な主体が連携して、「気づく・治療につながる・血圧を管理し続ける」という流れを街全体で強化します。行政、大学、医療関係者、企業、市民が一体となって進める点が特徴です。2018 年にサンパウロ（ブラジル）、ダカール（セネガル）、ウランバートル（モンゴル）で初めて導入され、その後世界 40 以上の都市へと展開されています。仙台市は日本で初めて CARDIO4Cities に取り組む都市として選定されました。

【詳細な説明】

研究の背景

東北大学は、医学的・科学的な知見を活かし、仙台市や地域の関係者と連携しながら、病気の予防や早期発見、適切な治療につながる取り組みに貢献してきました。

仙台市では、市民一人ひとりが健康で安心して暮らし続けられるまちづくりを進めており、健康寿命の延伸は重要なテーマの一つです。

ノバルティス財団による CARDIO4Cities は、都市全体で心臓や血管の病気を減らすための取り組みです。最大の危険因子である高血圧に焦点を当て、データで地域の課題を把握し、医療機関・職場・地域など多様な主体が連携して、「気づく・治療につながる・血圧を管理し続ける」という流れを街全体で強化してきました。CARDIO4Cities を 2018 年にサンパウロ（ブラジル）、ダカール（セネガル）、ウランバートル（モンゴル）で初めて導入され、その後世界 40 以上の都市に展開されています。先駆的に導入された 3 都市では、プログラム開始後、高血圧患者の血圧コントロール率の改善が確認されるなど、一定の成果が報告されています。また、脳卒中や心筋梗塞の推定発症リスクの低減があったとされており、都市全体で取り組むアプローチが、循環器の健康に測定可能な改善をもたらす可能性が示されています。

仙台市には、行政として健康課題に取り組む基盤があることに加え、東北大学という高い専門性を持つアカデミアがあり、地域のさまざまな関係者と連携して取り組みを進められる環境があります。今回、東北大学の産学官連携プロジェクトである東北大学 COI-NEXT「Vision to Connect」拠点（注２）の活動がきっかけとなり、関係者との対話を重ねる中で、仙台市が日本で初めて CARDIO4Cities に参加する都市として選定されました。

東北大学は、学術・研究面における中心的な役割を担うことが期待されています。これには市内の健康課題の分析、科学的根拠に基づく介入の設計、並びに循環器領域を含む学術・臨床・データ科学の知見及び地域の医療・研究ネットワークの活用に努め、本協働の推進を後押しする役割を担う予定です。

今回の取り組み

循環器疾患は、脳卒中や心筋梗塞などの心臓・血管の病気を指します。本取り組みでは、その危険因子である高血圧の予防と管理を当面の中心にすすめていきます。そのためには市の健康データに基づいて重点的に取り組む必要があります。特に、高血圧などのリスクを抱えながら、健診や適切な治療につながっていない方や、働く世代へのアプローチが課題と３者は考えています。

仙台市は、本協働全体の推進に向けたリーダーシップを担うことが想定され、重点課題の特定や、市の各種計画、市内の健康課題、既存の取り組みとの整合に向けた支援を行います。ノバルティス財団は、戦略的パートナーとして、実装に関する知見や助言を通じて貢献するとともに、本協働の革新的な側面を支援する機会を検討することが想定されています。東北大学は、学術・研究面における中心的な役割を担うことが期待されています。

本取り組みは仙台市のこれまでの取り組みを、データの活用と多様な主体の連携で強化するものです。

今後の展開

働く世代は健診で指摘されても治療につながりにくいことが課題です。まずは小さな取り組みから効果を検証しながら広げていきます。今後３年を目途に、プログラムの確立から実装までを行う予定です。

施策は市と東北大学、ノバルティス財団（スイス）が設置したステアリングコミッティーが意思決定し運営する予定です。東北大学は科学的な観点から検証し、透明性を確保します。健診や医療に関するデータを活用して仙台市の課題をより具体的に把握し、効果的な予防施策につなげていく想定です。

【参考リンク】

CARDIO4Cities について（ノバルティス財団ウェブサイト）

https://www.novartisfoundation.org/our-programs/cardio4cities

【用語説明】

注1.　循環器疾患リスク：脳卒中や心臓病など、心臓・血管に関わる疾患のリスクのことを指す。

注2.　「Vision to Connect」拠点：　JST 共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）「『みえる』からはじまる、人のつながりと自己実現を支えるエンパワーメント社会共創拠点」の略称。「自立（社会課題）・予防（医療課題）・意識変革（自分課題）」をターゲットとし、誰もが人生のどのステージでも、共に暮らし、働くことで、主体的に暮らせる社会の実現を目指しています。

【問い合わせ先】
（報道に関すること）
東北大学産学連携機構
イノベーション戦略推進センター
学術研究員　山田哲也
TEL: 050-1732-5422
Email: pr-mieru@grp.tohoku.ac.jp